

主な記事

日置市発足1周年記念式典 2
 いわさきグループ路線バス廃止 8
 消防だより 9
 まちの話題 12
 市民の広場 22



HIOKI-City <http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>

ひびき

HIOKI JOURNAL JUN.2006



鹿児島県日置市

市の人口(住民基本台帳)

総人口	53,003人	(14)
男	24,790人	(7)
女	28,213人	(7)
世帯数	22,320	(26)
6月1日現在()は前月比		

市の面積 253.05km²

今月の紙



まさかに備えて!
 5月28日、伊集院方面団操法大会が開催されました。選手は、的確な指令と機敏な動作を披露。優勝は小型ポンプの部「第一分団」自動車ポンプの部「中央分団町部」でした。

13 平成18年6月号
 発行/日置市役所 総務企画部企画課
 〒899 2592
 日置市伊集院町郡一丁目100番地
 TEL 099(273)2111
 FAX 099(273)3063
<http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>



わが地域



会長 的場 勝さん

山田自治会(日吉地域)
 「前進」が地域づくりの合言葉

山田自治会は日吉地域の西部に位置し、北部を東市来地域と接しています。この四月に、旧山田上・山田・山田下の三集落が合併し、地域内に八十七世帯、二百二人が暮らします。
 先月は、高齢者でつくる「山田交通安全いきいきクラブ」が、交通安全コンテストで成績優秀として伊集院警察署長から表彰されました。



▲楽しんで参加「野菜品評会」

地域の活性化策として、昭和五十七年に村づくり運動事業に取り組みました。同年に公民館を建設、秋の運動会(現在のレクリエーション大会)、野菜品評会は現在まで毎年実施し、地域の恒例行事として子どもから高齢者まで集う親睦を深める機会になっています。また、六月に開催される日吉の伝統行事「せつぺとべ」にも毎回参加、子ども会が中心となり地域の伝統を引き継いでいます。



▲毎年盛り上がる「秋のレクリエーション大会」

他の自治会と同様に、過疎高齢化が進み自治会運営への影響が懸念される中、自主財源の確保策として平成十年に緑竹生産に取り組み、地域民の協力を得て山を開墾し株を植え付けました。手入れも当番で行い、三年目からようやく収穫販売し、最近では株分け苗も販売できるようになり、日吉地域の緑竹生産拠点の一つになっています。また、農業後継者育成にも力を入れ、ハウス栽培や水稲甘しょ等の生産販売に期待しています。



▶今年も「せつぺとべ」で練踊りを奉納

定住促進が今後の一番の課題です。Uターンによる定住希望があっても土地や家の相談がうまくいかないことなど多々あり、空き地空き家対策など生活環境の改善にも努めていきたい。何をすることも地域民の協力なくては何もできません。これからも三集落が大同団結して住みよい地域づくり豊かな生活を目指し、意思の疎通と相互理解を深めながら一歩一歩前進していきます。

寄附・寄贈のお知らせ
 青少年育成などに有効活用

平成十七年度中に、次の個人、団体から多額の金品をいただきました。
 この貴重な財産等は、市の行政施策推進のために図書、購入や青少年の育成、環境整備などに有効に活用させていただきます。
 ありがとうございます。

【寄附金】 (順不同)
 本田勝彦 様 (東京都) 百万円
 江口漁業協同組合 様 三百万円

【土地】
 尾下耕造 様 (熊本県) 一筆 (吹上町)

【物品】
 児島知之 様 (鹿児島市) 薩摩焼花瓶ほか9点
 岩崎重俊 様 (鹿児島市) 薩摩焼壺ほか2点

日置市のシンボル等(市花・市木および市民憲章)を制定

今年の3月から4月にかけて、市民の皆さまから応募のあった「日置市のシンボル等」が、このたび市花及び市木選定委員会と日置市市民憲章検討委員会で決定し、日置市発足一周年記念式典で発表されました。

市では、決定された以下の各シンボルを、より一層の一体感醸成と、市の新しいイメージとして活用していきます。

市の花



市花 うめ

選定理由

うめの花は、酷暑や厳寒に耐え、百花に先駆けて「凛」として美しい花を咲かせ、市内の各所に植えられ親しみがあり心を和ませる花である。

梅は、バラ科の落葉高木で四君子(蘭・菊・梅・竹)の一つとして、気品と気高さを象徴し、古くから教育や文人精神を表した植物とされ、日置市との歴史的なつながりも深く、広く日置市民に親しまれる花として制定されました。

市の木



市木 クロマツ

選定理由

日置市は、日本三大砂丘の一つ吹上浜を有し、白砂青松といわれる青々とした松林が象徴的であり日置市のイメージに合致し、風雨にも耐え、たくましく育つ松林は、日置市民にも一番身近である。

クロマツは、松科の常緑高木で力強い生命力を持ち、歴史を刻み、たくましく発展する日置市を表し、これからも市民に親しまれる木として制定されました。

日置市市民憲章

わたくしたちは、ひかり輝く日置市をめざして、ここに市民憲章を定めます。

- 一、子どもたちに希望、お年よりに幸せのあるまちをつくります。
- 一、働くことに夢があり、豊かなまちをつくります。
- 一、伝統文化を生かした教育のまちをつくります。
- 一、豊かな自然環境を大切に、市民すべてが健康なまちをつくります。
- 一、きまりを守り、力を合わせて安心・安全なまちをつくります。

選定理由

検討委員会では、市民の皆さんのご意見を参考に、市民のまちに対する愛情を醸成し、まちづくりへの参加意欲を喚起するという大きな意義と、文章として簡潔で言い易く覚えやすいもの、子どもから高齢者まで誰でもが親しみやすいものであることとして制定されました。

前文は、本文の5項目を総括したもので、「ひかり輝く」の部分は、日置という地名からくる太陽のイメージ、日を置く(太陽暦)、日新たに(改革の精神)等の意味が込められています。



田代 宗夫教育長
市花・市木を発表



宇田 榮議長
市議会を代表してあいさつ

日置市長感謝状贈呈者表彰(敬称略)

- 久留 俊夫(旧東市来町助役)
- 谷口 正行(旧東市来町議会議長)
- 徳重 栄(旧東市来町議会議長)
- 宮内 光次(旧東市来町議会議長)
- 三原 辰子(旧東市来町議会議長)
- 島中 千秋(旧伊集院町助役)
- 上妻 勲(旧伊集院町議会議長)
- 宇都 隆秋(旧伊集院町議会議長)
- 野上 政人(旧伊集院町議会議長)
- 藤松 劫(旧伊集院町議会議長)
- 船迫ノブ子(旧伊集院町議会議長)

- 笠野 邦彦(旧日吉町助役)
- 成田 浩(旧日吉町議会議長)
- 堀 政男(旧日吉町議会議長)
- 上内 修一(旧日吉町議会議長)
- 門田 秀雄(旧日吉町議会議長)
- 諏訪 順子(旧日吉町議会議長)
- 池畑 昭治(旧吹上町助役)
- 山下 清通(旧吹上町助役)
- 満留 敏昭(旧吹上町議会議長)
- 西園 一幸(旧吹上町議会議長)
- 榊 秀徳(旧吹上町議会議長)
- 原田 昌作(旧吹上町議会議長)
- 甲斐 克美(旧吹上町議会議長)



▶感謝状を受ける笠野邦彦さん

- 南 一秀(旧東市来町監査委員)
- 諏訪 是(旧日吉町監査委員)
- 鮫島 登(旧東市来町監査委員)
- 黒葛 秋男(旧吹上町監査委員)



▶市花特別賞を受ける川畑弘子さん

日置市の市花及び市木特別賞(敬称略)

- 市花特別賞 川畑 弘子(吹上町小野)
- 市木特別賞 本田 紀子(吹上町永吉)

1周年記念

日置市誕生1周年を祝う



▲大勢の市民が参加し1周年を祝いました

記念式典を開催

五月二十日、新市誕生一周年を祝う記念式典を市伊集院文化会館で開催し、国県の招待者や市行政関係者、一般参加者を含めた約六百人が参加しました。記念式典は、オープニングアトラクションとして吹上青松太鼓保存振興会(北野和則会長)による力強い「吹上青松太鼓」の演奏で開幕。宮路市長の式辞のあと、宇田市議会議長のあいさつ、日置市市民憲章の発表、田代教育長から公募で決定した市花・市木の発表がありました。続いて行われた表彰状等の授与では、合併に功労があったとして旧四町の町長・議長が総務大臣表彰を受けたほか、合併協議に功績があったとして日置中央合併協議委員会など二十八人を代表して旧日吉町助役の笠野邦彦氏に感謝状の贈呈、市花市木の制定にあたり応募者の中から抽選で選ばれた川畑弘子さんと本田紀子さんに特別賞の授与がありました。次に総務大臣など来賓祝辞が行われたあと、市内の小・中学生四人が、それぞれ今後の日置市への夢と希望のメッセージを発表し、式典の幕を閉じました。各表彰受賞者は次のとおりです。

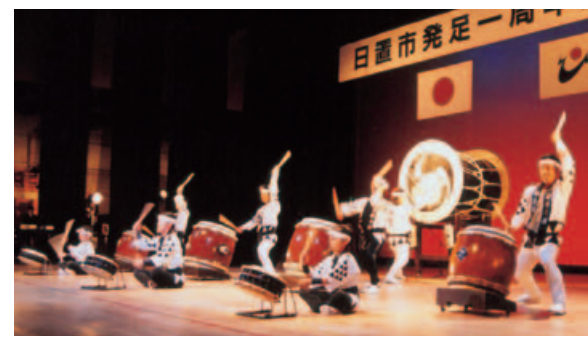
市町村合併功労者総務大臣表彰(敬称略)

- 【町長関係表彰】 下茂 孝一(旧東市来町長)
- 宮路 高光(旧伊集院町長)
- 井上 幸一(旧日吉町長)
- 横山 宏志(旧吹上町長)
- 故瀬野喜三郎(旧日吉町長)

【議長関係表彰】

- 宇田 榮(旧東市来町議会議長)
- 佐藤 彰矩(旧伊集院町議会議長)
- 宮内 博(旧日吉町議会議長)
- 鳩野 哲盛(旧日吉町議会議長)
- 馬籠 君夫(旧吹上町議会議長)
- 地頭所貞視(旧吹上町議会議長)

▲総務大臣表彰を受ける旧首長ら



▲力強い演奏でオープニングを飾った吹上青松太鼓保存振興会皆さん



『わたしの望む未来の日置市』

日置小学校六年 山口 泰子さん

わたしたちの日置市は、自然と文化と歴史の町です。この日置市は、ちょうど一年前に伊集院町、東市来町、日吉町、吹上町の四つの町が合併して、一つの市になりました。旧伊集院町の「妙円寺詣り」は、県の三大行事に数えられ、県内各地から集まった大勢の人でにぎわいます。わたしの住む日吉町からも、子ども会を単位としたグループなどで、たくさんの方が参加し、長い道のりを歩きます。

旧東市来町は、全国的に有名な「さつま焼」のかま元が集まる町です。美山には多くのとう芸作品を販売する店が建ち並び、県内外から多くのとう芸ファンが集まります。湯之元はすばらしい温泉にも恵まれています。旧吹上町は、日本三大砂丘の吹上浜を持ち、海の幸に恵まれた町です。夏に行われる「さつま湖花火大会」は、たくさんのお客でにぎわいます。

旧日吉町には、「せつべとべ」という伝統芸能が残っています。わたしも田植え踊りでささ踊りを踊っています。踊り子が踊って、大人が田んぼの中をはねて、とても愉快なお祭りです。

このように、いろいろな伝統と、すばらしい自然に囲まれた日置市を、わたしはほこりに思います。でも、将来のことを考えると、不安になってしまふこともあります。それは、この町で就職して、生活していくことができるだろうかということだと思います。わたしの母は、わたしが五才のときに突然天国へ旅立ってしまった。

でも、将来のことを考えると、不安になってしまふこともあります。それは、この町で就職して、生活していくことができるだろうかということだと思います。わたしの母は、わたしが五才のときに突然天国へ旅立ってしまった。

れています。そして何よりもこの町の人々、私の家族、友だち、先輩、後輩、かけがえのない人たちがこの町で暮らしています。そんな人たちに支えられて生活してきました。ところで、最近、私の家の近くに、ふきあげ図書館ができました。この前、実際に行ってみました。旧伊作駅の近くにあり、木のぬくもりが満ちたとてもすばらしい建物です。みんなが、利用しやすい工夫がいろいろあります。中はとても広く、たくさんの本が置いてあります。インターネットなども利用でき、たくさん資料もそろってあり、勉強したり、本を読んだりするのに最適だと思います。ふきあげ図書館以外の市内の図書館も利用しやすくなったので、大いに活用したいと思っています。

次に、日置市になっても、さつま湖花火大会が継続されたことを、とてもうれしく思っています。さつま湖花火大会は、とても有名で県内外から多くの人が来ます。これからも、花火大会を通してみんなが日置市に興味をもつてくれたらうれしいです。遠くから来た人が、もう一度この日置市に来たいと思える、そんな町であってほしいです。

また、吹上青松ジョギング大会も継続してほしいと思います。私は、小学生のときに、ウォーキングに参加したことがあります。中学生になってからは、陸上部に所属していることから、スタップとして、かわりました。このイベントも町内からだけではなく、県内外からも参加していました。この先、日置市の新たなスポーツイベントが開催できたら、とてもうれしいです。その時は、ぜひ参加したいです。

さて、先日日置市のホームページを開いてみました。日置市の概要を見て、日置市が目指しているのは、「地理的特性と歴史と自然との調和を生かしたふれあいあふれる健やかな都市づくり」だということがわかりました。その中でも、「ふれあいあふれる健やかな

した。ですから、今、わたしは父と二人で暮らしています。

わたしが小さいときから父は、外での仕事も家の仕事も一生懸命にして、わたしを育ててくれています。そんな父に、一日も早く恩返しをして楽にしてあげたいと思っています。

わたしは、将来、パソコンを使っているいろいろなものをデザインする仕事か、外国語を日本語に通訳するような仕事にしたいと希望しています。そして、そんな仕事をしながら、父のそばにいたいとも思っています。でも、そのような会社が日置市にあるのだろうか、また、そのような会社に勤めることができるだろうかということが、今、心配になっています。もしもないのであればどうすればよいのだろうか。大好きな日置市をはなれて暮らさなければならなくなることが、とても不安なのです。そのため、生まれ育ったこの町が、大きく発展していくことが必要だと思っています。

自然と文化と歴史が調和したこの日置市。この良さを失うことなくさらに発展するとともに、お年寄りも若者も助け合って暮らしていくことができる豊かな日置市になることを、わたしは望みます。



『僕の好きな日置市』

鶴丸小学校六年 藤田 豊森くん

僕が住む東市来町は、去年、伊集院町・吹上町・日吉町の3つの町と合併して、新しく日置市になりました。しかし、僕にとっては身近なことには思えず、あまり興味もありませんでした。ただ東市来町立だった建物が、日置市立に変わったことぐらいの変化でした。

都市づくり」というところは、高齢者の多い日置市にとっても大事だと思いました。これまでこの町を支えてこられたお年よりの方々が元気で笑顔にあふれ、安心して生活できるそんな町になってほしいと思います。これからの日置市を担うのは私達だと思っています。地域の行事に積極的に参加し、みんなで日置市を盛り上げていきたいです。最後に、未来の日置市に望むことを考えました。一つ目に、「自然と都市が共存し、みんなが楽しく暮らしている町」二つ目に、「ずっとここで暮らしていきたいと思う町」

です。こんな町にしていくには、市民一人一人が、なにごとにも協力し合い、みんなの「この町を盛り上げていこう」という気持ちが必要だと思います。市長さんを始め、多くの市関係者を中心にしながら、市民みんなで、すばらしい日置市の未来にしていけたらいいなあと思います。私は「日置市が好き」です。もともとずっと自信をもって「日置市が好き」と言えるようになりたいです。



『日置市へ夢と希望のメッセージ』

伊集院北中学校三年 栗田 徹士くん

昨年の五月に伊集院町、吹上町、東市来町、日吉町の四町が合併し、日置市が誕生して約一年がたちました。

しかし、日置市が誕生して一年がたつたといつても、正直僕は、日置市になって何が変わったのか一年たつた今も、まだよくわかりません。この度、日置市発足一周年記念式典であ

でも、2週間ほど前に、担任の先生から、「日置市の未来」について作文を書いてみませんか。」と言われ、「はい。」

と、返事をした瞬間から、僕は自分なりに日置市のことを考えるようになりました。

そこで、合併した4つの町はどんな町だったのか調べてみました。まず、東市来は全国的にも有名な薩摩焼の産地です。江口漁港に水揚げされるイリコチリメンもとてもおいしいと評判です。次に、伊集院と聞いてすぐに思いつくのは、おいしい伊集院まんじゅうです。また、年に一度行われる「妙円寺詣り」は、鹿児島県の三大行事にもなっているとても有名な行事です。そして、吹上町には日本三大砂丘の一つ、吹上浜があります。吹上浜では、毎年砂でできているとは思えないほどの砂像が作られています。薩摩湖という大変にきれいな湖もあります。花火大会は、とてもきれいでした。最後に日吉町は、緑竹で有名です。「せつべとべ」という伝統行事も伝わっています。

僕は自分で調べてみて、4つの町ならではの特色をたくさん見つけることができました。日置市は、古い「歴史」や「伝統」、特色のある「行事」、美しい「自然」に恵まれたとてもよい市だと思いました。

僕は、みんなにもこの日置市を好きになってほしいと思いました。そのため、日置市の自然や歴史・伝統行事・産業をいっばい知ることができるといいなと思います。ただ見て回るだけでなく、楽しく遊びながら勉強できたら楽しいと思います。クイズを解きながら回ったり、薩摩焼や農業の体験もできたりすると楽しいと思います。歴史は、ジオラマや動く人形、劇で教えてもらえたら、小学生にもよくわかると思います。僕は、特に島津義弘公について知りたいです。日置市のことならなんでもわかり、何度でも行きたくなるような施設ができてほしいです。

さつをするこことになり、「日置市へ夢と希望のメッセージ」ということで少し日置市について考えてみました。日置市は海や山などに面した、自然に恵まれた土地です。また、伝統工芸もさかんで、特に東市来町の美山の陶芸は全国でも有名なものとなっています。日置市の美しい自然や伝統的な工芸をより、鹿児島県内、県外へと広めることよって、日置市の活性化につながると思っています。日置市には鹿児島県三大行事にも含まれる伊集院町の妙円寺詣りをはじめ、梅マラソン、日吉町の全国でも有名なせつべとべ、太鼓踊り、東市来町の伊勢神社太鼓踊り、ふるさと港祭り、吹上町の伊作太鼓踊り、流鏝馬などそれぞれの町で伝統的な行事がたくさんあります。

それぞれの町ごとで取り組んでいる行事はありますが、日置市全体で取り組むことのできる行事もあればいいと思います。すけれども、ただ行事を増やしていくのではなく、各町で受け継がれてきた伝統を守りながら、町ごとの交流を深めて新しい歴史を刻めるような行事ができればよりよい市になっていくと思います。

しかし「日置市をよりよい市にしていく」なかで問題も出てくると思います。たとえば、近年日本国内で問題となっている高齢化ですが、日置市の高齢化率も年々増加していくと予想されています。僕自身も、毎月配られる広報「ひおき」のおめでたとお悔やみの覧で、おめでたの覧よりも、お悔やみの覧のほうが多いことに気づき、日置市でも社会で言われる高齢化問題が深刻化してきていることを実感しました。そこで、僕は福祉施設の充実をはかり、近所同士で助け合いのできる市づくりができれば、高齢化問題に少しは対応できるのかなかと思いました。

僕たち中高生が市のために何かできるこ

また、お年寄りや子どもたちが、一緒に楽しく安心して遊べる広い公園があればいいと思います。きつと近くの市や町からもたくさんの方が、遊びに来てくれると思います。他にも、合併した4つの町の人たち全員が参加できるお祭りもあればいいと思います。お年寄りや障害者、子どもも一緒に参加でき、見ている人も楽しくなるようなお祭りがあるとよいと思います。

もしもこんな施設や公園、お祭りがあれば、みんなが日置市のことを大好きになると思います。そうすれば、日置市はきつともっともつとすばらしい市になっていくと思います。最後に、僕は将来自分が大人になったら、この日置市のために働きたいと思っています。そして日置市のみながここに住めてよかつたと思えるような市にしていきたいと思っています。



『日置市へ夢と希望のメッセージ』

吹上中学校三年 西園 世菜さん

吹上町が伊集院町、東市来町、日吉町と合併し、日置市になり一年が経ちました。今日のこの「日置市発足一周年記念式典」で発表するにあたり、わが町、日置市や吹上町のことについて考えてみました。

私はこの町に生まれ、育ちました。私を育ててくれたこの町は、東シナ海を臨む広大な吹上浜や町の中心を流れる伊作川、春にはあざやかな色で町をいろどるサザンカやツツジの花々などとても自然に恵まれた豊かな町です。その自然の中で、これまでいろいろな体験をしてきました。自然の豊かさだけでなく、この町は、古い歴史や文化にも恵ま

とがあると思えば、地域行事への参加による市の活性化だと思います。そう思った理由は、地域行事に参加することによって、その町の発展に繋がりと、町ごとの発展は市の活性化につながると思っています。

これからの日置市の未来を背負っていく僕たち日置市民がそれぞれの町が築き上げてきた伝統を理解しあつて、それらの伝統を守りながらみんなで助け合い、新しい伝統を築いていけたら良いと思います。今回、日置市について考え、調べてみて、日置市のもつ伝統や自然のすばらしさを改めて実感しました。

僕は、この日置市にスポーツが盛んなでみんなが生き生きとした市になってほしいと思っています。

現在僕は学校の陸上部に所属していますが、近くにある伊集院総合運動公園では陸上競技場の整備、テニスコートの整備、新たなドームの建設が進められ、さらにスポーツが盛んになりそうです。これまで、陸上を続けてきて、近くにもこのような施設があるということ、本当に助かってきました。施設が整備されだんだん大きくなっていくと日置市外からもスポーツをするためにやってくる人が増えてきます。そのような時にはスポーツを通して他の地域の人達との交流を深めることができます。

また、東市来町、吹上町の温泉街などの観光地もこれまで以上に鹿児島県内外にPRして、将来的には県内でも有数の観光地になってほしいと思います。

日置市がスポーツがさかんな、温泉などの施設で有名な観光地になることが今の僕の日置市の夢です。

日置市の特つ良き伝統を守り、良い所をさらに伸ばしながら、日置市民全員で協力して明るく活気に溢れた日置市をつくっていきましよう。

よりよい合併効果・自立と協働のまちづくりを進めます

日置市行政改革大綱を策定

【改革が目指すもの】

今回策定された市行政改革大綱は、昨年十月から各種団体の代表者や公募で選ばれた方々で構成される市行政改革推進委員会（宮廻委員長）において、素案が討議され付帯意見と共に市長に答申がなされ、これを受け本年三月に決定したものです。

日置市では、住民の生活圏拡大に対応した行政サービスのあり方、地方分権の進展、さらには厳しい財政状況と急速に進む少子・高齢社会等の課題を解決するために、市町村合併を選択し一年が経過しましたが、合併により全ての課題が解決するわけではなく、むしろ規模が大きくなったことで、組織や人事、公共施設の重複など新たな行政課題に加え、市民ニーズに的確に対応できる質の高い行政サービスの提供が求められています。

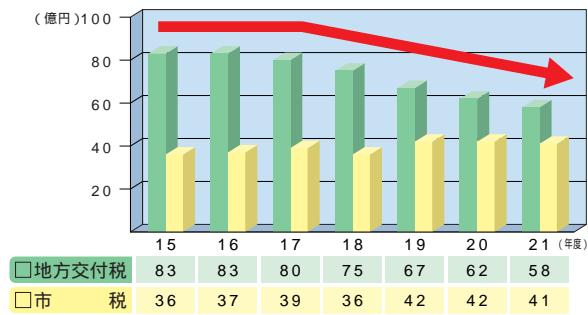


▲宮路市長へ答申する宮廻委員長

大綱の期間

18年度 5力年 22年度

地方交付税と市税の年度別収入実績見込額の推移



また、市の財政状況は、市税をはじめ地方交付税の増収が見込めないことから、これまでのような行財政システムでは、近い将来非常に厳しい状況に陥ることが予想されています。今後の財政状況を考えると、日置市誕生を機に地域の責任ある経営主体として、本市が目指す「地理的特性と歴史や自然との調和を生かしたふれあいあふれる健康やかな都市づくり」実現のため、より戦略的な事業選択により、限られた財源の有効活用を努めていかなければなりません。

そのため、市では、より効率的で迅速な対応ができる組織、経済的な公共事業、内部の改革と併せ、市民や企業等が行政経営に参画しやすい仕組みをつくり、それぞれが持つ特性や強みが有効に発揮され、このほど策定された「第一次日置市総合計画」が円滑に推進される行財政システムの構築を目指します。

【改革に向けた視点】自立と協働

地方分権の社会には、国や県依存からの脱却、権限面の確立、財政面の健全化、債権・債務の長期的管理、市民の理解と協力、職員の意識改革が必要です。いわゆる「自立」した自治体を目指します。

このことは、市民と行政の関係にも当てはまることです。お互いが依存しあう関係から脱却し、互いに手を取り合い連携していくこと、つまり「協働」していくことが求められます。今後、市の事業計画策定においては、計画段階からその評価段階においても、市民の意見が取り入れられ、次のステップに生かしていく市民参画のシステム

作りが必要です。これまで以上に市民が主役になっていかねばなりません。

効率性と透明性

市政の推進に当たっては、ヒト・モノ・カネ・情報という経営資源を有効に活用し、最少の経費で最大の成果をあげることが必要です。

行政は、市民の為という意識はもろろのこと、市民とともに業務を遂行していく意識（行政の共同経営）を持たねばなりません。意思決定の過程や事業評価などを公開し、行政の持つべき情報を市民と共有していく必要があります。

市民の目線に立つもの

今回の行政改革は、市民と行政の間にある敷居を取り払い、自由に行き来できるようにすることもねらいの一つであり、いわゆる行政のバリアフリー化であります。難しい表現や複雑な事務手続きの簡略化など、より一層の市民サービス向上とともに、市民の目線に立ち、対話を重視しながら心の通った行政を目指します。

【具体的な計画内容】

新たな行政改革大綱実施計画の主な内容として、
①組織体制の見直し
②本庁と支所の役割や部課等の整理統合

②職員定数と人事
職員十五％程度の削減、職務と能力に応じた給与の適正化

③財政の健全化
中・長期的な財政プログラムの足腰の強い財政運営の確保

④業務の外部委託の推進
公共施設管理、公営企業等の見直し

⑤人材育成の推進
市民サービスの満足度と職員の資質向上など七項目をあげ、より効率的な行財政運営を目指します。

この取り組みにより、五年後に当初予算ベースで十七年度と比較して概ね五十億円程度の削減を目指しています。

【進行管理を確実なものに】

行政改革の推進を確実なものにするために、改革の進行管理を行い、進捗状況については、市民の皆さんへ公表していきます。

【お問い合わせ先】

総務企画部合併プロジェクト室
(内線二二六六)
※参照 日置市ホームページ
<http://www.city.hioki.kagos.hima.jp/keikakutop.htm>

この大綱の行動計画(アクションプラン)については、次号で紹介いたします。

社会は貴重な学習の場

中学生約六百人が職場体験学習

キャリア・スタート・ウィークに協力を

職場体験学習を中心とした中学校におけるキャリア教育は、子どもたちが働くことの喜びや厳しさ、望ましい職業観や勤労観を学び、学習に対する意欲を向上させるための貴重な学習活動です。

日置市では、キャリア教育推進連絡協議会を設置し、地域の協力を得ながら、中学生の職場体験学習を推進していきます。

キャリア教育とは

現代社会が抱える様々な問題点には、社会の新規卒業者に対する求人減少や若者の職業人としての基礎的資質・能力の低下などがあります。キャリア教育とは、児童一人一人の望ましい職業観・勤労観を育てるため、日々明確な目的意識をもって学業生活に取り組み、子どもたちが主体的に自己の進路を選択・決定していくなど、社会人・職業人として自立させようとするものです。

そこで、今年度日置市内の各中学校では、職場体験学習の充実に取り組みます。

キャリア教育推進連絡協議会開催

文部科学省では全国で「キャリア教育実践プロジェクト」を実施。その中の「キャリア・スタート・ウィーク」を推進し、子どもたちの職業観・勤労観を育てるため、中学校を中心とした五日間以上の職場体験の実施など、キャリア教育の推進を図っています。



▲協議会で実践発表を行う宮元校長

日置市では、キャリア教育推進連絡協議会を設置。関係諸団体（ハローワーク、商工会、市PTA連絡協議会など）や受入事業所の代表者、市内中学校職員が会し、四月十三日と五月十八日に協議会を開催しました。四月十三日の第一回協議会では、キャリア教育推進事業の趣旨・役割などの説明、今後の事業計画などについて協議され、五月十八日の第二回協議会では、四月二十五日と二十七日に行われた土橋中学校の職場体験学習の実践発表があり、宮元一頼校長から学習の成果や今後の課題などが発表され、協議されました。

地域一体となって取り組むために

日置市の中学生約六百人が四月から十月までの二ヶ月間で職場体験学習を行い、今年度は次の日程で実施する予定です。協議会では、中学生の職場体験受入事業所を募集し、生徒の学びの場を広げていきたいと考えています。また、これから各地域の事業所などで働く中学生を見かけることがあると思います。見かけた時には是非、声を掛けてあげてください。

四月二十五日から二十七日の三日間、土橋中学校の三年生八人が伊集院地域内の七事業所で、六月六日から八日の三日間、上市来中学校の二年生十三人が伊集院・東市来地域といちき串木野市内の六事業所で職場体験学習を行いました。緊張して眠れなかった生徒や楽しんで仕方がない生徒など様々でしたが、それぞれの職場での礼儀作法や仕事内容を教わり、実際に仕事をして、働くことの喜びや厳しさを学んでいたようです。またその他にも、職場見学なども行われました。

土橋中、上市来中が職場体験学習を実施



▲田代保育園で働く今村さん(上市来中学校)



▲青山じゅあんで働く尾堂さん(左)、郡山さん(右)(土橋中学校)

学 校 名	学年	日数	期 間
伊集院中学校	3年	5日間	7月10日(月)~7月14日(金)
	3年	2日間	7月11日(火)~7月12日(水)
伊集院北中学校	3年	2日間	7月11日(火)~7月12日(水)
日吉中学校	2年	3日間	10月3日(火)~10月5日(木)
吹上中学校	3年	3日間	10月3日(火)~10月5日(木)

いよいよ夏本番



▲ 遠浅でも危険

▲ 転落事故に注意

▲ 池や川遊びも要注意

▲ 子供の監視を

水難事故に注意!

日置市近郊の吹上浜海岸は、東市来地域の江口浜海浜公園内の人口ビーチを除き、遊泳禁止区域になっています。

この遠浅になる海岸では、貝掘りなどに夢中になると、満ちてきた潮で深みができて、陸に戻れなくなる恐れがあります。

また、沖へ勢いよく流れる潮(離岸流)が発生することがあり、遊泳はとても危険です。

水難事故は、海以外の池や川それにプールや風呂場などでも起きています。

熱中症について

昨年の夏、日置市消防本部管内で熱中症又は熱中症疑いで20名以上の方が救急搬送されています。いずれの方も軽い症状で済みましたが、ひとつ間違えると大変なことになります。

晴天の日だけでなく、曇りの日でも多く発生しています。

予防

- 頭や首が直接日光に当たらないように、帽子などで保護しましょう。
- 高温多湿の環境の下で運動や肉体労働をする場合、十分な水分補給と適度な塩分補給に心がけ、できる限り休憩をとるようにしましょう。

応急手当

- 風通しのよい涼しい日陰へ運んで寝かせましょう。
- 衣服をゆるめるかあるいは脱がせて安静にしましょう。



もし事故がおきたら・目撃したら

- 1 周囲に助け(応援)を求める
- 2 119番通報をする(海上保安庁は118番)
- 3 もっとも安全で確実な方法で救助する
- 4 意識がなく呼吸がなければ人工呼吸を、脈拍も感じられなかったら人工呼吸と心マッサージをすぐに始める

消防署では、毎月9日を救急講習の日と定め、普通救命講習等を実施しています。もしものために受講しましょう。(少人数でも申し込み可能)

風水害に備えて



台風や豪雨の襲来は予測できます。気象情報で中心気圧や最大風速を知り、万全の対策を立てておきましょう。台風や豪雨に襲われたら、慌てず適確に対処できるよう日ごろから十分な対策を立て、被害を最小限にとどめるようにしましょう。

日ごろの準備は万全ですか?

- 【停電に備えて】ローソク、懐中電灯、携帯用ラジオ、マッチなど。
- 【火の使用は最小限に】風で大火を招くことがあるため要注意。
- 【早めに浸水対策】屋根や窓、雨戸からの浸水に備えて修理する。雨水の逃げ道を確保するため排水溝を掃除する。浸水の恐れがでたら電気製品、家具を高所へ。
- 【非常持ち出し品】貴重品、衣類、食料と水(1人、1日3リットルを目安に)は3日以上、燃料、救急薬品など。

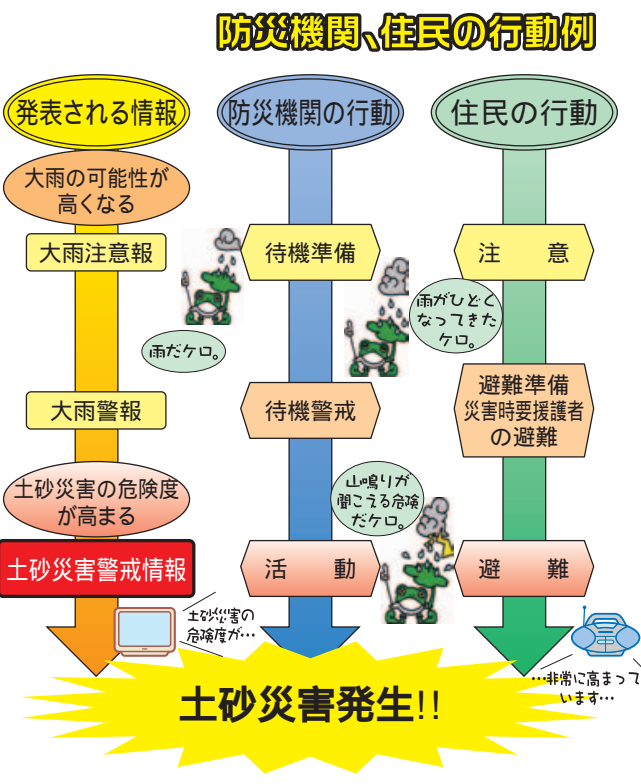


梅雨の末期 まもなく台風シーズン

防災の備えは十分ですか!

梅雨も半ばを過ぎ、まもなく台風のシーズンを迎えます。梅雨期には、年間降水量の三分の一が集中し、災害発生危険性が高く、短時間で局地的な豪雨になる傾向があります。また、台風では、大雨のほか、暴風や高潮などにより甚大な災害が発生することがあります。大雨や台風の時には、テレビ、ラジオの気象情報や市の防災行政無線の放送に十分注意し、災害が発生しそうな場合は、早めの避難に心がけ、かねてから安全な避難経路や避難場所を把握しておきましょう。最近の気象情報では、「土砂災害警戒情報」をお知らせしています。この情報は、県と気象台が過去の雨量データや土の中にとまっている雨水のデータなどをもとに、市町村単位で土砂災害の危険性が高まっていることを示すものです。市では、防災活動や避難勧告等の必要が生じた場合の判断基準とし、住民の生命と財産を守る情報として活用しています。

私はいつ避難すればいいの?



五穀豊穰、無病息災を祈願！

萩・伊勢神社奉納棒踊り

五月三日、養母地区にある萩・伊勢神社で、二百年以上も前から踊り伝えられている棒踊りが、同神社の境内で行われました。踊り連は、同地区の自治会（萩・田代・梅木・北山・鉾之原）と皆田地区大平自治会の小学生から大人までの総勢二百三十人が各地区それぞれに歌い手の歌に合わせて、六尺、三尺棒や鎌を交えた勇壮な踊りを奉納しました。



▲ ユーモアあふれた庭狂言「あとやま」



しみが萩自治会青壮年部による庭狂言「あとやま」。現代風にアレンジされた時代劇「水戸黄門」がユーモアたっぷりに披露されると境内は、笑いの渦に包まれました。

柵田散策&山菜狩り体験

尾木場地区で春を満喫

四月九日、尾木場地区で「柵田散策&山菜狩り」が行われ、鹿兒島市などから十三家族四十三人が参加し、柵田の散策やめだかの見学、竹の子掘りなどを楽しみました。

竹の子掘りでは、自分の顔より大きい竹の子を掘り当てた子どもや袋いっぱい詰めた家族の姿が見られ、ワラビ狩りでは畑一面に生えたワラビを一生懸命つみ取るなど、めだかの里の春を満喫していました。

また、地元野菜をふんだんに使った豚汁や、ワラビや竹の子の漬け物が振る舞われる昼食も参加者の楽しみの一つ。尾木場では、空気がきれいです。散策をすることで良いリフレッシュになりました。「尾木場から元気をもらうことができました。」など、感激した様子で会場を後にしました。



▲ 竹の子掘りにも挑戦



▲ 樹齢推定200年、幹回り3.5メートルの一本杉

親子で楽しむ、読み聞かせ

「子ども読書の日」

四月二十二日、東市来図書館で「読書の夕べ」が行われ、市内から親子連れなど百三十人が参加しました。

この夕べは、親子で読み聞かせに親しみ、読書に関心を深めてもらおうと、四月二十三日の「子ども読書の日」に合わせて開かれたもので、今回で五回目。読み聞かせボランティアグループ

「こけけ読み聞かせたい」（福田敬子会長）による絵本、紙芝居の読み聞かせや映画会など盛りだくさんの内容で、参加した子どもたちは、話の世界に引き込まれ、楽しい時間を過ごしました。

今後は、「日置市の民話を聞く会」や「読書の秋の夕べ」が予定されています。



▶ 手づくりの紙芝居に見入る参加者



▲ 昼食会では地元食材を使った料理に大満足

第14回ふるさと港まつり

江口漁港に 活気と歓声



▲ 大勢の人が集まったオープニングの餅まき

五月三日、澄みきった青空に大漁旗がたなびく伊作田地区の江口漁港で「第14回こけけ王国ふるさと港まつり」が盛大に開催されました。

市内外から訪れた大勢の家族連れが見守る中、港に鳴り響く花火を合図に、色鮮やかな大漁旗を掲げた漁船が船団を組み勇壮に入港し、祭りがスタート。

人気イベントの「魚のつかみ取り」や「漁船乗船体験」には、それぞれ三百人の定員に対して倍以上の参加希望者が行列をつくるなどの大盛況。特に「魚の

つかみ取り」では、たて×よこ七尺の特設プールに、体長五十センチを超えるマタイやアジなど江口漁港沖で取れた活魚約三百匹（約四百五十匹）が入れられると、待ち受けた子どもたちは水しぶきをあげて魚を追い求め、大物を捕まえるたびに周りの見物人から大きな歓声があがっていました。

また、同港で水揚げされた鮮魚を安価で販売するコーナーや炭火焼でその場で食べられるグルメコーナーも多くの買い物客であふれていました。特設ステー



▲ 大物をゲット！



▶ 暑い中スタッフも大忙し



▶ 漁船による航海は気持ちいい



▲ 見事当選！秋太郎まるごと1本プレゼント



▲ 伊作田小児童による舞踊も披露

地域住民で資源を守る

五月九日、市中央公民館で、ふるさと保全田代山里会（東福泰則会長）の役員と宮路市長など行政関係者が参加し、農地・水・環境保全向上活動支援実験事業（モデル支援事業）に係る協定書の調印式が行われました。

この事業は、地域の農業者だけでなく、地域住民も含めて農地・農業用水等の資源の適切な保全管理等を行うもので、全国の約六百地区（県内二十地区）で実施されます。

田代地区の対象農地は、田三十六畝、畑五十三畝で、国や県市からの交付金は三百六万八千円です。

今後の活動は、遊休農地等の発生状況の把握や施設の点検清掃、農道補修などを実施し、併せて農村環境保全および質的向上を図るために生態系保全計画も策定します。



▶ 東福会長と握手を交わす宮路市長

期待を胸に 新団員十一人が入団

日置市ジュニアオーケストラ入団式



▲入団証を受け取る上江舞さん



▲新団員を激励

四月二十二日、市中央公民館で平成十八年度市ジュニアオーケストラ入団式が行われ、幼稚園生一人、小学生六人、中学生三人、一般一人の計十一人（東市来二人、伊集院七人、市外二人）が入団しました。式では、現団員による歓迎演奏後、入団証の授与が行われ、新団員を代表して上江舞さん（伊集院北中学校二年）が入団証を手渡されました。入団証を手にした新団員は歓迎の言葉を述べ、緊張しながらもこれからの活動に胸を膨らませているようでした。新団員の今後の活躍が期待されます。

安心して快適に暮らせる地域福祉社会をめざして

日置市民生委員・児童委員協議会設立

日置市の民生委員・児童委員の活動体制の強化と資質向上を図り、社会福祉の増進を期することを目的として日置市民生委員・児童委員協議会が設立され、五月十二日、東市来文化交流センターで設立総会が行われました。

この協議会は過去十三回にわたる設立準備委員会を経て設立され、会長には福富富弘さんを選出。総会では規約や平成十八年度の事業・活動計画を決めました。

また、当日は設立記念式典とアトラクションも行われ、アトラクションでは知的障害者更生施設ふるさと学園の太鼓とバンド演奏がありました。

民生委員・児童委員は地域住民の生活状況を把握し、福祉サービスによる支援が必要な人々に対する確かな情報の提供や相談・支援活動を行っており、現在百三十七人が活動しています。



日置市スポーツ少年団本部設立

5月12日、日置市スポーツ少年団本部設立総会が市中央公民館で行われました。スポーツを通じて青少年の健全育成を図り、単位スポーツ少年団を指導・育成することを目的に発足。スポーツ少年団の場合は体協と異なり、各地域の本部は廃止し、市で一本化することとなりました。

4月28日、日置市体育協会設立総会が市中央公民館で行われました。市民の体力向上と体育振興に寄与することを目的に、旧四地域体育協会はそのまま継続し、旧四地域体育協会の上部団体として発足しました。総会では、規約、要綱、平成18年度の事業計画を決めました。

日置市体育協会設立



いきいきと充実した生活を送るために

伊集院地域生涯学習講座開講式

五月二十四日、伊集院文化会館で平成十八年度伊集院地域生涯学習講座開講式が行われました。

式では、今年度の講師紹介があり、各講座の講師を代表して、外園京子先生（中央公民館三味線講座）に委嘱状が交付されました。

その後、鹿児島国際大学講師の義山宏文氏が「輝く人生の創造」と題して講演。伊集院中学校校長として在籍されていたこともあり、伊集院地域に滞在していた時の経験を交えながら話



▲義山宏文氏による講演



▲委嘱状を受け取る外園先生

されました。生涯学習講座は、一人一人が生涯にわたって潤いと生きがいをもって充実した生活を営むために開設するものです。今年度は新たに着物着付け講座も加わり中央公民館で二十八講座、伊集院地区公民館で八講座、飯牟礼地区公民館で六講座、土橋地区公民館で六講座、伊集院北地区公民館で六講座、妙円寺地区公民館で十一講座、合計六十五講座千三百三十七人の受講者です。スタートします。

五月十九日、ゆすの里体育館で第一回日置地区身体障害者スポーツ大会が行われました。大会には約百三十人が参加。東市来・伊集院・日吉・吹上の四地域対抗で行われ、ピン倒しや輸入入れなどの計七種目で競われました。参加者は各地域の声援を受けながら精一杯プレー。第一回優勝は伊集院地域となりました。

第1回日置地区身体障害者スポーツ大会



「ゆすいん」入浴者百万人突破！



▲100万人達成のくす玉開き
(左から 深川さん、小松さん、長野さん、宮路市長)

平成十二年四月一日のオープン以来、多くの人たちに利用されている伊集院健康づくり複合施設「ゆすいん」の入浴者数が五月二十五日、百万人を突破し、記念のセレモニーが行われました。見事百万人目になったのは、長野定子さん（妙円寺六区）。百万人の前後には深川タキ子さん（朝日ヶ丘）と小松立身さん（猪鹿倉）。宮路市長とくす玉を割って達成を祝い、記念品が贈られました。また、長野さんは玄関前でいすの木の記念植樹も行いました。

市内小・中学校へ 歯牙保存液を寄贈



五月十七日、串木野日置市郡歯科医師会が市内小中学校に歯牙保存液二十七個を寄贈しました。これは、例年行っていたポスターコンクールの代わりに寄贈されるもので、外傷による歯牙脱落事故発生時に、できるだけ早期に脱落歯牙を保存液に入れ近隣の歯科へ持参すると、その歯牙を植え直した時の生着率が高まるというものです。



▲市長も参加しました



神事が終わり、御神体を先頭に行列を組み、御神田へと下ります。八幡集落の子どもたちも行列のみこしを担ぎ御神田まで歩きました。

御神田では、それぞれの集落の力自慢が十メートルほどもある看板(団旗竿)やしべ竿を立てて持ち、御神田の端から端まで運びます。体勢を崩し竿が倒れそうになると、見物客から喚声が上がっていました。



▲今年の豊作を祈願します



今年、飛び入りで宮路市長も参加。全身泥だらけになりながら踊りました。



▲八幡自治会(虚無僧踊り)



▲盛り上がるイベント会場

また、午後からは日置八幡神社前の特設会場で、「せつぺとべイイベント」が行われ、吹上青松太鼓や徳重大バラ太鼓踊り、各集落の奉納踊りなどが披露されました。会場はたくさんの方でにぎわい、盛り上がりっていました。



▲日新自治会(鎌踊り)

日吉地域に伝わるお田植祭り「せつぺとべ」が六月四日、日置八幡神社と吉利鬼丸神社などで行われました。

泥はね上げ、豊作祈願



▲諏訪自治会(笹踊り)



▲山田自治会(鎌踊り)



せつぺとべ

境内や御神田で泥んこになって飛び跳ねる「せつぺとべ」。楽しんで田を踏みならす白装束姿の踊り手。踊るのが先か、焼酎が先か。踊りの輪は崩れてはまた広がり、いつまでも歓声は途切れませんでした。



▲大王殿のお下り

ふるさと日吉をいつまでも

ブライアン山下物語刊行

吉利小にそびえる「ブライアンの樹」として親しまれているクスの樹の植樹百周年記念として「ブライアン山下物語」が刊行されました。

この本を通じて、先人たちの破天荒な生き方を学び、彼らを育てた日吉の風土に思いを馳せてみませんか。



小川沿いに光の乱舞

ホタルの観察会



五月二十日、笠ヶ野運動広場でホタルの観察会が行われ、地域住民や住吉小学校の生徒など約百人が日当川沿いの光の乱舞を楽しみました。

待望の集会施設完成

北区地区集会施設落成式



吉利神社近くに待望の北区地区集会施設が竣工され、五月二十一日、落成式が行われました。

せつぺとべ射会



六月四日、日吉運動公園弓道場で第三十回日吉せつぺとべ射会が行われました。今年も五十七チーム百七十五人が出場し、腕を競いました。

開館。子育てにやさしい図書館

日置市立ふきあげ図書館

「子育てにやさしい図書館」を目指して建設が進められていたふきあげ図書館が五月十一日、開館しました。
同日午前開かれた開館記念式典には、多数の関係者が出席。市長らのテープカットで開いた館の木の香に誘われるように入館しました。
式典では市長が「吹上地域市民待望の図書館ができました。」

先人の思いが込められた旧町有林のぬくもりを感じながら本に親しんでください」とあいさつ。
開館にあわせて絵画を寄贈していただいた関東鹿児島吹上会の瀬戸口功さんや、関西鹿児島吹上会に感謝状が贈られました。
また、利用者を代表して伊作小学校六年の片平遥那さんと地頭所品代さんが「マナーを守って」と喜びを語りました。

「子育て中の親にはなによりプレゼント。これから利用者でこも育てましょう」。子育てで支

援センターがめめ遠矢ゆかりさんは、愛息の手を握りながら、期待を込めていました。
同図書館の蔵書は約三万二千冊。児童コーナーをはじめ畳コーナーやおはなしの部屋も完備。DVDやパソコンも利用できます。
貸出には「利用者カード」が必要で、免許証など本人確認ができるものをご提示のうえ、手続してください。
ご利用をお待ちしております。
開館時間・十時～十九時
休館日・毎週月曜日
祝日、年末年始



地道な行政相談の功績を表彰

甲斐克美さん九州局長表彰



吹上地域で行政相談委員を務める甲斐克美さん（新川原）がこのほど、九州管区行政評価局長表彰を受けた。
「国などの公的機関に対する苦情や要望をつなぎ、橋渡しをするだけ」と謙虚に話す甲斐さん。表彰は長年の地道な功績に対するものです。
「年二回の行政相談のほか、随時相談も受け付けます。秘密は守られますので、ご相談ください」と話されました。

焼きたてパンを召し上がれ

ヤマンカンでパンづくり体験

山神の郷公園のおもいで館で五月二十一日、和田小低学年親子がパンづくりに挑みました。
児童らは、ふつくら発酵した生地の感触を楽しみながら、いたわるように伸ばし、ウサギや魚などに成形。卵やチョコ、レーズンで飾りオープンへ。「食べるのがもったいない」「これは何の形」。焼きたてパンを目の前に、会話も弾みます。
八人分で八千円から体験できます。詳しくはおもいで館（二九九・三四二〇）まで。



今年の夏もよろしくね

ウミガメ保護パトロール出発式



鹿児島県ウミガメ保護パトロール出発式が五月十九日、吹上中央公民館でありました。出発式には県内の保護団体や自治体関係者など六十人が出席。
式では県環境保護課の水谷課長が「活動は十九年目を迎え、県民の理解も定着。自然環境保全活動として誇りを胸に活動してください」とあいさつ。パトロール参加団体に「かめまる君」から腕章が手渡されました。
昨年、県全体の上陸確認頭数は五、七一一頭。その数は以前より回復しつつあります。

どんなときでも「いかのおすし」

伊作小防犯訓練

「三年一組に不審者が侵入」。鳴り渡る非常ベルとともに整然と校庭に避難する児童。これは伊作小で五月二十九日、行われた防犯訓練の様子です。
訓練では、実際に車からの声かけ事案も再現。「お菓子をあげるから」としつこく言い寄る不審者を、三人の女子児童が協力して撃退。子ども一〇番の家に駆け込みました。
不審者への対応は「いかのおすし」。ついていかない。車にのらない。おお声を出す。すぐ逃げる。しらせる。地域での見守りも不可欠です。



地域資源を総動員

きりめく農村・農業祭

下与倉自治会で五月三日、「きりめく農村・農業祭」が開かれました。この祭りは、交流による元気な農村づくりを目指す。吹上地域の農業委員らが発起人となり、きりめく農村の会（内村文弘会長）が主催したものです。
主役はレンゲが咲き誇る田。ステージやテント群が準備された農村は、イベント会場へと様変わり。農道にはチンドン屋や馬車が練り歩き、地域の女性の特産販売に声をからす風景に、大勢の人が詰

め掛けました。
来場者は、下与倉刀踊りをはじめ、皿回しや手品など、多彩な演芸が繰り広げられるステージを、振る舞われた豚汁片手に見入っていました。
この日、下与倉産の米を原料にした焼酎「乙女月」も初お目見え。
地域資源を総動員した農業祭は、農村に新たな示唆を与える取り組みとなりました。来年度は吹上地区で開催される予定です。



ウエディングドレス試着も大好評 初めての着心地にうれしそうです

たかがストレスされどストレス

こころの健康は栄養・運動・休養の3本柱

ストレス社会といわれる現代、私たちは、さまざまなストレスにさらされています。特にこの時期は、**五月病**という言葉があるくらい環境の変化などにより、多大なストレスを抱える方が多いようです。ストレスは受け方次第で良い刺激になります。時には心身の健康をおびやかすことも少なくありません。

鹿児島県は、全国でも自殺者が多い県の一つですが、その中でも伊集院保健所管内（日置市、いちき串木野市）においては、他の保健所と比較して自殺者が多いという結果が出ています。

また、自殺者のうち九割を越す人たちの背景に、うつ病が存在すると言われており、こころの健康づくりがたいへん重要といわれています。

うつ病とは？

こころが、風邪をひいたり

症状をこじらせた状態

こころが疲れたために、気分がうつうつと元気が無い状態が長く続き（普通二週間以上）意欲がなくなったり、日常生活に支障をきたすようになった場合を言います。

本人の努力で改善することはなかなか難しく、家族や同僚、職場の上司の配慮や場合によっては専門的な治療が必要になることも多いです。

家族や周囲の人の役割

- ① ゆっくりと話を聞く
- ② 励ましすぎない
- ③ こころの負担が大きくなるのを避ける
- ④ ゆっくり休ませる
- ⑤ 重大な決断は先に延ばすようにアドバイスする



食改さんの健康メニュー

【作り方】

- ① たこは一口大に切り、Aで下味をつけ、小麦粉をつけて揚げる。
- ② 白ねぎは白髪ねぎにし、水にさらしてから水気をきる。
- ③ 水菜は食べやすい長さに切っておく。
- ④ セロリは筋をとり、細い千切りにし、水にさらし水気をきる。
- ⑤ ボウルに①②③④を入れ、Bを混ぜ合わせて加え、和える。

たこの揚げサラダ仕立て



【材料(4人分)】

- ・たこ……………150g
- A [しょうゆ……………大さじ1
- こしょう……………少々
- 小麦粉……………適量
- 白ねぎ……………1本
- 水菜……………40g
- セロリ……………40g
- 揚げ油
- B [んにく……………小さじ1
- しょうゆ……………大さじ1
- レモン汁……………大さじ1
- 塩……………少々
- こしょう……………少々
- サラダ油……………大さじ1と1/2

心もからだも健康になればみんな幸せ

健康情報 ひおき シリーズ(7)

うつ病・うつ状態の早期発見チェックシート

症状	内容	チェック
1	毎日の生活にはりが感じられない	
2	これまで楽しんでやれていたことをしても楽しくない	
3	わけもなく疲れたような感じがする	
4	これまで楽にできていたことが、おっくうに感じられる	
5	自分が役に立つ人間だと考えることができない	

※ このチェックシートは、うつ病発見の手がかりの1つとして行うチェック表です。1～5の症状のうち、2項目以上に当てはまった人は、要チェックです。早めに専門機関（病院や保健所、保健センター等）にご相談ください。

また、うつ病では、次のような症状もよくみられるものです。

- ◇睡眠障害（眠れなくなる、寝すぎる）
- ◇食欲障害（食欲がわかない、食べ過ぎる）
- ◇死についてよく考える



このコーナーに掲載を希望されない方は手続きのときに、お申し出ください。

おめでとう

伊集院地域 (5月受付分(敬称略))	(出生児)	(保護者)	(自治会)
新山せせら	浩二	上土橋	
鶴丸 璃空	勝也	平古	
荒殿こころ	一洋	妙円寺2区	
寺田 遥翔	克仁	郡上	
糸井 雅喜	浩幸	瀬戸内	
坂下 翔大	浩治	妙円寺1区	
田邊 梨沙	喜章	妙円寺7区	
川畑 雄大	慎太郎	郡上	
今村 達也	哲郎	立野	

吹上地域 (出生児)	(保護者)	(自治会)
川之上蒼真	大三	緑ヶ丘
柳原 稜	隆	藤元
馬場 杏奈	英人	北湯之元
竹之内博貴	和博	新川原

吹上地域 (故人)	(享年)	(自治会)
藤田 重夫	85	坂之上下
森山キミ子	87	美山下山
元山レイ子	74	中伊作田
宮原 茂治	78	内門
川路 キヨ	86	道上
奥 オトモ	83	二瀧
川路 敏	78	青松園
前田 三夫	80	古里東
上園 優	56	榎園団地
上原 國夫	75	内門
田代 ナミ	82	毘沙門
檜物 満雄	100	植木
岡村 秀昭	73	笠ヶ野

東市来

美山の窯跡

県指定文化財に

四月二十一日に、美山地区の御定式窯跡が「美山薩摩焼窯」の名称で鹿児島県指定文化財になりました。美山地区は江戸時代から四百年以上続く薩摩焼の生産地として全国的に知られています。現在でも十ヶ所以上の窯元が並び、伝統の技を伝えていきます。美山地区の歴史的な価値が今回の指定で改めて認められたことになりました。

薩摩焼は、慶長三年（一五九八）、島津義弘が朝鮮から陶工を伴って帰国したことに始まります。美山の陶工たちは、慶長八年に串木野から美山に移住してきました。美山では朝鮮伝来の技術を守りつつ、新しい技術も取り入れ、大いに発展して薩摩焼の最大の生産地になりました。

県の文化財に指定された窯跡は、寛延年間（約二百六十年前）に開かれたとされています。このほか美山地区には四百年の間に使われた多くの窯跡が残っています。市指定文化財の「南京皿山窯跡」（弘化三年「一八四六」）、「五本松窯跡」（寛文九年「一六六九」）、「美山の初期の窯で発掘調査の後に移設された「堂平窯跡」がそれです。他にも、多くの窯跡が残っていますが、これらの窯跡は薩摩焼の歴史を知るうえで極めて重要な資料でその価値は県指定の窯跡にも劣るものではありません。

今年の二月から三月にかけて、鹿児島大学が美山地区で窯跡などの遺跡の分布を九日間にわたって調査しました。「今後も美山地区の調査を行いたい。」とのことでした。

今回の指定により、本市の県指定文化財は十二になりました。

『引用参考文献』

- 『東市来町誌』東市来町
- 『日本のやきもの薩摩』淡交社



▲ 県指定文化財「美山薩摩焼窯」



ギョウワ 私の作品展

「陶芸」

両井 正男 さん(67歳) 東市来町美山

定年を機に3年前美山に移住。薩摩焼の里の風土が陶芸を始め、たきかけで、市の生涯学習講座の2年生。美術展などに足を運び、様々な作品を見て勉強するのも楽しみで、作品には美山の400年登り窯で焼いたものもある。ゆくゆくは、講座の時間だけでなく、自分のリズムで作陶できるような自宅に窯を構えたいです。



ウツチ まちの文化財 ⑬

だいじょうじ だいじょうじ 大乗寺跡(日吉地域)

「せつべとべ」が行われる日置八幡神社の奥にあります。秀吉に抵抗したことで知られている島津歳久や、日置島津家歴代領主と夫人の墓があります。仁王像や龍をかたどった精緻な手水鉢なども残っています。

歳久は、1537年に伊作城(吹上地域中原地区)で生まれました。父は島津家15代貴久、祖父は伊作島津家10代忠良(日新公)でした。歳久は、兄弟の義久・義弘・家久と共に蒲生や大口など各地で戦い、三州統一を果たしました。その後、九州の大半を支配した島津氏でしたが、豊臣秀吉に敗れ降伏しました。降伏に最も反対したのが歳久だったそうです。降伏の後も秀吉に抵抗を続けたと伝えられています。

1592年に島津氏の家臣梅北国兼が秀吉に対し反乱を起こしました。秀吉は歳久が反乱に関係があると疑い、処刑を命じました。歳久は領地の宮之城から呼び出され、竜ヶ水で討たれました。

1595年に歳久の遺族に日置(現在の日吉地域日置地区)が領地として与えられ、孫の常久が領主になりました。常久は大乗寺に歳久の墓を建て、日置島津家の菩提寺にしたと伝えられています。



引用参考文献 『日吉町郷土史 上巻』

Access
本庁から 車で25分
日吉支所から 車で南へ5分

▲中央が歳久の墓



ゆめ & チャレンジ

『ぼくの将来の夢』

和田小学校六年 金城 隆志 くん

ぼくの将来の夢は、漁師になることです。ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは奄美にいます。だから毎年夏休みに奄美に行つて、海で泳ぎます。初めて奄美の海を見た時は、「きれいだな」とびっくりしました。海にもぐると、クマノミとかウツボとか色々な魚がたくさんいて、わくわくしてきます。港の近くを散歩していると、漁から帰ってきた漁師さんたちに会ったりします。とてもかっこいいです。ぼくも自分の船で漁に出てみたいです。そして、海を大切にできるといい漁師になりたいです。

いきいき ひと

シリーズ⑬



初めて絵本を作ったのは中学時代。当時から絵を描くことが得意だった原田さんは、「小さい頃から絵本や紙芝居を作ってくれた母の影響で、気が付いたらイラストや絵本作りが好きになっていました」とこやかに話します。子どもが生まれてからは、子どもと一緒に絵本やおもちゃ作りを楽しみ、子どもが大きくなった今では、手作り絵本の出版やイラスト作品の個展の開催、子育てに関する情報誌「わおん」の編集スタッフなど幅広く活動。今は自宅二階のアトリエで布絵本を創作。アイディアと工夫で絵本のバリエーションも広がります。

原田さんは、これまでに公民館講座「リサイクルクラフト」講座や小学生とその保護者を対象とした夏休み工作教室の講師。朝日ヶ丘子ども会では副会長を務めるなど地域にも貢献。子どもが小学校に通っている頃、PTA活動でクラスメイト全員が登場する絵本も作りました。「一緒に絵本やおもちゃを作る楽しさを共感したい」そんな気持ちで地域の人と関わっています。

「絵本の魅力は、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年代層に楽しんでもらえること。これからも本を開いた人の心に届く作品を作れたら幸せですね」

子どもも大人も楽しめる魅力あふれる手作り絵本



原田 美夏 さん [42歳]

伊集院町猪鹿倉 (朝日ヶ丘自治会)

大学卒業後、小学校・養護学校に6年勤務。第1子誕生を機に退職。以後、子どもと共に絵本やおもちゃ作りを楽しんでいます。平成8年からイラストレーターとリサイクル工作講師として活動を始め、現在では、手づくり絵本の出版やイラスト作品の個展を開催するなど幅広く活躍。



マリア デメトリウ

Maria Demetriou さん



【伊集院地域 ALT】

こんにちはみなさん、私は Maria Demetriou (マリア デメトリウ) です。伊集院地域のALT (=外国語指導助手) です。イギリスのロンドンから来ました。伊集院に住んでもうすぐ2年です。新しく日置市になってから、2つの中学校と4つの小学校で教えています。ここに住むのは大好きです。伊集院は、とてもきれいな町だと思います。それにみんながすごくやさしくて、よくしてくれるのでここに来てすぐ好きになりました。

私は仕事でたくさんの学生と話します。とても楽しいです！彼らはよく私を笑わせます。

外国に住むことはとても素晴らしい経験です。私は日本の学生にも外国を旅行していろいろな国をみてほしいです。日本に来る前は、日本はユニークで変わった国だと思っていました。でも日本に住んで、違いはたくさんあるけど似ているところもあることを発見しました。

もうすぐALTの仕事が終わります。2年間はとても早かったです。ここを去るのはとてもさみしいですが、帰ったら友達や家族に伊集院での生活の話をして思い出したいです。



◀楽しく英語の授業を行うマリアさん